

<p>児童、生徒・ クラスの実態</p>	<p>対象は、小学部2年生4名。1名は、発語はあるが不明瞭。もう1名は、教師の言葉を少しずつ模倣できるようになってきたが、ほとんど発語はない。2名は発声のみである。</p> <p>iPadの使用については、3名は家庭で使用しており、操作に慣れている。1名は使用したことがない。</p>
<p>指導目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad の簡単な操作に慣れる。 ・ iPad を操作し、言葉を読み上げてもらうことで、コミュニケーションや選択する手段の一つとする。 ・ 実物と写真のマッチングをする。
<p>場面や授業</p>	<p>生活単元学習「お店屋さん」</p>
<p>使用したアプリについて</p>	<p>アプリ名 (Drop Talk)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スケジュールを作成し、タップすることで消していく。 ・ 話し言葉が苦手な人のコミュニケーションツール(VOCA ソフトウェア)
<p>児童、生徒・ クラスの様子 や変化</p>	<p>3名の iPad の操作に慣れている児童は、すぐに使い方が分かり、店員役として、「いらっしゃいませ」や「ありがとうございました」、「〇〇円です。」のイラストを正しい場面を選択した。客役でも、欲しい物を選択した。1名の児童は、タップすること自体が難しかった。教師と一緒にタップして使用した。</p> <p>読み上げた言葉を模倣したり、言葉に合わせてジェスチャーや礼をする姿が見られた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>
<p>アプリを使ってみて（感想や反省、今後知りたいことなど）</p>	<p>発語の少ない児童や発音が不明瞭な児童にとって、読み上げアプリを使うことで、言葉を発したり、コミュニケーションを取ろうとしたりする意欲につながった。</p> <p>iPad の使用に慣れていない児童がいたため、まずは使い方を知るところからすべきだった。使い方を知らするために良いアプリ等があれば、知りたい。</p>